

国語科 2年A組	お気に入りを紹介しよう ～マイ アーノルド ワールド～	川端 大獎
-------------	--------------------------------	-------

1. 単元について

本教材は、アーノルド=ローベル作「ふたりはなかよし」シリーズの中の話であり、児童にとって身近な生き物であるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。ちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、心優しいかえるくんのほのぼのとした友情を描いた心温まるお話であり、友だちに关心をもち始めている2年生の児童にとって分かりやすく、楽しい物語だと思われる。叙述をもとに、それぞれの登場人物の性格や状況を把握し、場面の移り変わりと共に変化する気持ちを行動や会話などから捉えていくようとする。また自分の経験とも照らし合わせて物語の世界を感じ取らせたい。

物語の中で、場所が「がまがえるくんの家→かえるくんの家→がまがえるくんの家」と移っているので場面の変化を把握しやすい。さらに、文章と場面ごとの挿絵を照らし合わせて読み進めることで、登場人物の心情の変化もより分かりやすく読み取ることができる。よって、場面の様子や登場人物の会話や行動を中心に、想像を広げながら読む力を身に付けるために適した教材と考える。

さらに、会話が多いこの作品の特徴を生かして、動作化を取り入れながら役割読み（ペア音読）し、登場人物のやり取りを楽しませるなど、音読活動にも力を入れていきたい。

2. 単元設定の理由

（1）本実践の主張点

アーノルド=ローベルの作品の中から好きな作品を選び、その中の気に入りの場面を本の名場面ショーウィンドウとして友達に紹介しようとして、主体的に読みを深めていくだろう。

本実践では、アーノルド=ローベルの作品の中からお気に入りを選び、その中のさらにお気に入りの場面を本のショーウィンドウに書いて、友達に紹介するという学習課題を設定した。自分のお気に入りを紹介しようとして、より主体的に物語を読み深めようとする子どもが育つであろう。

また名場面ショーウィンドウを書くために第二次ではペア音読を取り入れる。二人で会話文の読み合いをすることで、自分たちで会話文のおもしろさやその時の登場人物の心情に迫ることができるであろう。そして名場面を考えることで物語を身近に感じることができ、主体的に読みを深め、読み取ったことをもとに名場面ショーウィンドウに反映させることができると考えている。

（2）教科提案との関わり

本校国語科では、「問い合わせ、学び続ける子どもたち」を育むため、「つながり」をキーワードに研究を進めている。それを踏まえて、本実践では、ペア音読やお気に入りをショーウィンドウで紹介するという活動を展開していく。ただ友だちに発表するだけでなく、友だちとの意見交流を経て、自分の考えや意見に深みをもたらせたいと考えている。自分の考えや意見の深まりとは、「○○さんの意見で、わたしは○○のように考えていたけれど、○○のように変わった」や「○

○さんの発表で、わたしはやっぱり○○だと考えます。」といった意見や考えをもつことができると考えている。またそこから読みのズレが生まれ、「なぜ」や「どうして」といった疑問が生まれることでより深く読むことができるであろう。

3. 単元目標

◎がまくんとかえるくんの様子や気持ちを、会話文や挿絵などに着目して読み取ることができる。

【読（1）エ】

○登場人物の様子や気持ちが表れるように、声の大小、速さ、間の取り方、表情や身振り、登場人物の目線・姿勢などに気を付けてペア音読をすることができる。【読（1）カ】

○自分のお気に入りの場面について紹介する本の名場面ショーウィンドウを自分の体験や叙述をもとに書くことができる。【読（2）イ】

4. 単元計画（全12時間）

第一次	1：本の名場面ショーウィンドウを知り、作成することを確認する 2：「お手紙」を読み、好きな場面を選ぶ
第二次	3：全文を読み、挿絵を見ながら出来事を整理し、場面分けを行う 4：手紙がもらえずに悲しむがまくんにかえるくんが共感する場面を学習 5：かえるくんががまくんに手紙を書き、かたつむりくんに渡す場面を学習 6：かえるくんががまくんと一緒に手紙を待つ場面を学習 7：がまくんとかえるくんが手紙を待ち、手紙がついに届く場面を学習（本時） 8：「お手紙」の本の名場面ショーウィンドウを作成する 9：「お手紙」の本の名場面ショーウィンドウを作成する
第三次	10：アーノルド=ローベルの他の作品の中から好きな本を選び、本の名場面ショーウィンドウを作成する 11：アーノルド=ローベルの他の作品の中から好きな本を選び、本の名場面ショーウィンドウを作成する 12：友だちの本の名場面ショーウィンドウを見て、読みたいなと思った本を読みメッセージを書き、書いた人に渡す

5. 本時について

本時では、1場面と4場面の挿絵を比較しながら、かえるくんの優しさに感動するがまくんと、親友であるがまくんの喜びを自分の喜びと感じるかえるくんの様子や気持ちを読み取る活動を行う。また挿絵の比較だけでなく、ペア音読で1場面と2場面の音読の比較も行いながら、かえるくんがお手紙をくれることや「ぼくの親友」と書いてくれたことを知ったがまくんが、驚き、感激し、幸せな気持ちになっていく変化を十分想像させる。また、がまくんの動作化をすることで、登場人物の心情について深く主体的に読み進めることができると考えている。